

いしがせ たたか 石ヶ瀬の戦い (森岡)

げんざい もりおか きた はし なが いしがせがわ
現在、森岡の北の端を流れている石ヶ瀬川は、
ひがしうらちよう おおぶし さかい
東浦町と大府市の境になっていますが、むか
し、この川は、今の大府高校あたりで海に注い
か わ いま おおぶこうこう うみ そそ
でいたと思われます。引き潮のときに、石でい
おも ひ しお いし
っぱいの瀬が現れるところからこの名がついた
せ あら な
ものでしょう。

むかし、この川をはさんで、こちら側に緒川
か わ がわ おがわ
じよう みずののぶもと ぐん む おかざき き
城の水野信元の軍が、向こう側に岡崎から来た
まつだいらもとやす のち とくがわいえやす ぐん む あ
松平元康(後の徳川家康)の軍が向かい会って、

さんど たたか おこ いしが
三度にわたって戦いが行なわれました。「石ヶ
せ たたか
瀬の戦い」です。

もとやす ははおだい のぶもと いもうと もとやす
元康の母於大は、信元の妹ですから、元康に
のぶもと おじ のぶもと もとやす
とって信元は伯父であり、信元にとって元康は
おい あ しん かんけい たいしよう
甥に当たります。このような親せき関係の大将
どうし たたか とうじ するが
同士が戦わねばならなかったのは、当時、駿河
いまがわよしもと おわり おだのぶなが てんか
の今川義元と尾張の織田信長が、天下をねらつ
はげ たいりつ もとやす いまがわがた のぶもと
て激しく対立しており、元康は今川方に、信元は
おだがた
織田方についていたからです。

もとやす たけちよ ちちひろただ
元康がまだ竹千代といっていたころ、父広忠
し ちから よわ おかざきじよう いまがわし
に死なれて力の弱くなった岡崎城は、今川氏

の勢力のもとに入ってしまった、竹千代は、人質として駿府（今の静岡市）の城へあずけられました。竹千代は、そこで十四歳のときに元服し、十六歳で松平元康と名を改めました。十七歳になり立派に成人した元康に向かって、義元は言いました。

「このごろ、お前の故郷の西三河の城主の中に、このわしにそむいて織田方へ通じる者がおると聞く。お前も、これで一人前となったのだから、岡崎へ帰ってわしにそむくやつらを平らげ、初陣の功を立ててみる。」

この言葉で、元康が岡崎に帰ると、岡崎城の元の家来たちが続々と集まってきて、たちまちにして立派な軍勢が整いました。そこで、元康は、今川氏にそむく矢作川上流の城をつぎつぎ攻め落として、義元を大いに喜ばせました。そして、ついに石ヶ瀬川をはさんで、緒川城の水野信元の軍と対決することになりました。永禄元年（一五五八）六月のことです。しかし、勝負はつかず、両軍、こぜり合っていていどで兵を引きました。第一回めの石ヶ瀬の戦いです。それから二年後、永禄三年五月、今川義元



は、二万五千の大軍を率いて駿府を出ました。

織田信長を破り、一気に京都へ攻め上るつもり

です。この時、元康は、今川方の先鋒隊として

大高城におり、そこから東方の丸根砦を攻め

落とし、今川軍の進攻を助けました。

しかし、大高城への集結をねらって進む今

川軍は、途中、雷まじり大夕立の中で、信長の

奇襲を受け、義元が戦死し、大敗走となりました。

桶狭間の戦いです。

この情勢をいち早く知った水野信元は、敵な

がら、甥の元康が大高城で孤立するのを心配し

て、こっそり使者をやりました。

「義元が討たれた。すみやかに岡崎へ帰ら
よ。」

元康は、この信元の忠告のおかげで、危ない
ころを助かりました。

しかし、義元の死後、すぐ態勢を整えた元康
は、今度は自分だけの判断で兵を出し、六月十
八日に石ヶ瀬に、翌日は刈谷城外へと迫り、水
野勢をおびやかしました。この両日は、炎天下
もうれつな暑さのために、両軍とも激しくは
戦わず、兵を引きました。二回めの石ヶ瀬の戦
いです。

そして、翌年二月七日にも、また元康は、兵
を率いて石ヶ瀬に進攻し、三たび水野勢と戦
ました。

この三度にわたる岡崎勢の攻撃に、すっかり
手を焼いた信元は、信長に元康と和睦すること
をすすめました。そして、永禄五年正月、清洲
城において信長、元康は会見し、両氏の同盟が
成立しました。元康が伯父の信元を石ヶ瀬に攻
めたのは、信長と対等の関係で同盟を結ぶため
のかけ引きだったと言われています。

桶狭間の戦いするとき、危いところを信元の

忠告ちゆうこくで助たすかった元康もとやすです。本気ほんきで信元のぶもとを攻せめた
のではなかつたようです。その証拠しょうこに、元康もとやすの
家臣かしんの者が、一回かいめの石ヶ瀬いしがせの戦たたかいのとき、信
元もとの家来けらいから鯉こいのかぶとを譲ゆずり受うけ、以後いごその
かぶとを愛用あいようして二回かいめの石ヶ瀬いしがせの戦たたかいにも
かむつて出陣しゅつじんしたという、のんびりとしたエピソードつたが
伝えられています。